

## 事業名 ピンポン横丁

対象 小学生～高校生、乳幼児とその保護者

### 事業内容

子ども会議を開催し、企画、運営など準備から子ども主体で行います。「ピンポン横丁」というまちで、子どもたちは自分が考えて準備したお店・銀行・役所などで仕事を体験することができます。仕事を探し、実際に働き、給料をもらい、税金を納め、手にした給料で買い物をしたり、食事をしたり、遊んだりすることを通じて、働くことの楽しさや大変さなどを感じ、社会の仕組みを学びます。「ピンポン横丁」の中ではタウンマネーを使います。

### 事業のポイント

- ・一人ひとりが参画していくことの大切さを知る。
- ・社会の仕組みに触れ、自治を体験する。
- ・楽しい街になるために議論することで互いを認め、尊重することを学ぶ。
- ・子どものまちを子ども自身が作り上げることで達成感を持つ。
- ・やりたいことを実現することで、自分に自信を持つ。

### こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）
- ・計画や目標を立て、目標達成までのプロセスを管理する力
- ・多様な人とつながり協働する力
- ・主体的に行動する力
- ・社会の一員として、社会に関わる力



### エピソード

ピンポン横丁の歴史の中で、実行委員を担ってくれていた、ミックスフルーポンズという小学生から中学生の女の子を中心としたグループがありました。そこで活動をしていた子たちはみんな、はじめは一般参加者だったのですが、もっとまちに関わりたいと企画スタッフとして活動するようになりました。彼女たちは経験を通じて、次第に全体を見ることができるようになっていきました。

ピンポン横丁では、税金制度を導入していて、それを働けない子ども（乳幼児）や大人へのお金にしていました。つまり、ピンポン横丁の社会保障です。ある時、その税金が足りなくなりました。まちの運営が立ち行かなくなり、緊急子ども会議を実施しました。ミックスフルーポンズは話し合いをして、結果、「給与は同じで子どもたちの働く時間を短くしよう」と自分たちで決めて実施をしました。

自分たちの発想からまちが変わっていくことを経験することで自信をつけ、そこから次の取り組みに繋がっていきました。その一つが横浜で実施されたこどものまちサミットへの参加でした。

ピンポン横丁での取り組みを通じて、子どもが自信をつけ、次の挑戦に繋がっています。そのための大人の役割として、子どもたちが参画する機会や場をつくっていくことが必要です。